OVER20
& Company.

所属と独立のジレンマ

エニー生は何を求めてここに来るのか

独自調査

2024/4

©2024 OVER20&Company.,Inc. All rights reserved.

株式会社ＯＶＥＲ２０＆Ｃｏｍｐａｎｙ．〒105-6027 東京都港区虎ノ門4丁目 3-1 城山トラストタワー 27 階
contact@over20-company.com http://www.over20-company.com

目次

はじめに

手法

エニー生の志向性の分析

考察

むすびに

執筆者：OVER20 INITIATIVE OCEAN

研究室長　宮 澤　優 輝

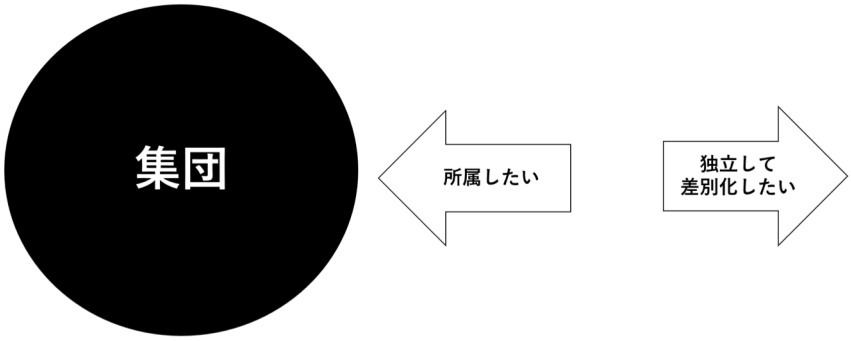
©2024 OVER20&Company.,Inc. All rights reserved.

株 式 会 社 Ｏ Ｖ Ｅ Ｒ ２ ０ ＆ Ｃ ｏ ｍ ｐ ａ ｎ ｙ ． 〒105-6027 東京都港区虎ノ門4丁目 3-1 城山トラストタワー 27 階
contact@over20-company.com http://www.over20-company.com

はじめに

本稿におけるキーワードは「志向性」である。志向性とは、意識が特定の対象に向けられているという性質を指す。本稿ではエニー生の意識がいかなる方向に向けられているのかを推察する。
私達は常に、社会集団への所属と独立のせめぎあいの中で葛藤を繰り返している。所属することは安心感をもたらし、独立は自らの差別性や優位性を感じさせるため、人間はいずれをも求める生き物である。

このようなことを説明する理論には、例えば社会心理学の最適弁別性理論がある。この理論は人が何らかの社会カテゴリーに対する所属を感じたい一方でその社会カテゴリー内に属する他の主体とは異なることを望むとするものであり、例えば独自性が高い人々が集まる社会カテゴリーに属することでこの欲求を満たすと説明する。



©2024 OVER20&Company.,Inc. All rights reserved.

株式会社ＯＶＥＲ２０＆Ｃｏｍｐａｎｙ．〒105-6027 東京都港区虎ノ門4丁目 3-1 城山トラストタワー 27 階
contact@over20-company.com http://www.over20-company.com

特に、日本の社会文化的環境の近年における変化を踏まえれば、このジレンマをいかに解消するかは重要となっている。心理学者の荻原祐二氏は離婚率の向上、家計人数の低下、子供やペットに対するユニークな名前の使用、新聞で使用される単語の変化、独立が重視されるようになっているなどの社会的価値観の変化から個人主義が日本において普及していると説明する。その一方で、同時に、集団主義的価値観も持続し、強化されている可能性すらあることが発見されていると荻原祐二氏は指摘する。このような社会文化的環境の変化から、所属と独立の欲求の間のジレンマはますます強力になっていると考えられるだろう。
どちらの欲求にどの程度駆り立てられ、その結果いかなる行動を取るかは、そのまま個人の他者と協調する欲求と自らのオリジナリティへの欲求と関連付けられ、共同や創造性が多種多様なコンテキストに求められる現代においては重要だろう。そのため、第一の分析視点は、エニーに参加する個々人が、どのような社会カテゴリーと、どのような接点を求めているかを分析する。
第二の分析視点は、エニーに参加する個々人がどのようなゴールを持ってエニーに参加しているかというものである。人が追求するものは、人の判断基準や価値観を反映する。例えば、卑近な例ではあるが、健康に重きを置くのか、食事における美味しさのどちらに重きを置くかに応じて、食事における多種多様な意思決定は変化するだろう。現代では、往々にして、学歴や資格などの形ある側面に光を当てて個人を理解しようとするが、ソフトスキルが着目されているように、実は普通では目に見えない性質の方が重要な情報を抱えていることがある。したがって、第二の分析視点は、いかなるゴールをもってエニーに参加しているかということがある。
このような分析には、私たちのサービスをどのような個人が利用しているかを示し、参加することで何が得られるか、協賛することで何が得られるかを明らかにすることに寄与する。前回のレポートでは、エニー生には開放性が高い、創造的な個人が多いことが分かったため、今回のレポートは補完的な結果が示されるかもしれない。なお、データは限られているため、考察においてはこれらのデータから考えられることを大胆に推測することでヒントを得るレポートである。

©2024 OVER20&Company.,Inc. All rights reserved.

株式会社ＯＶＥＲ２０＆Ｃｏｍｐａｎｙ．〒105-6027 東京都港区虎ノ門4丁目 3-1 城山トラストタワー 27 階
contact@over20-company.com http://www.over20-company.com

手法

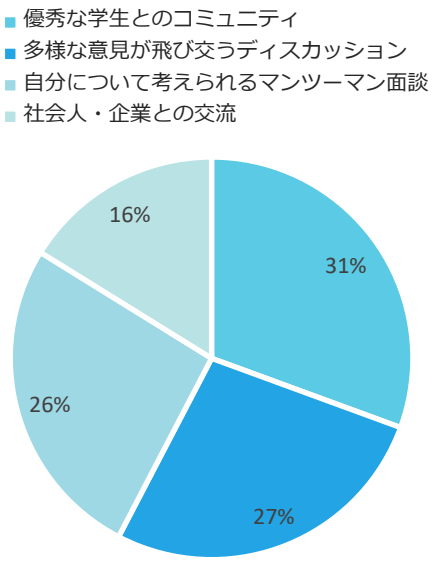
分析に際しては、定量データと定性データの双方を対象とした分析を行うことで、事前の設定した分析視点に合わせて明確な比較検討を行いながらも、自由な回答から得られる知見を抽出する。いずれのデータもサーベイから得ており、定性データは198名から収集し、定量データは121名から収集している。。

エニー生の志向性の分析

独自性の追求とコミュニティへの所属の追求

Figure1

エニーに参加した目的（複数回答可の問いからのデータ）



所属と独立のジレンマ ～エニー生は何を求めてここに来るのか～

©2024 OVER20&Company.,Inc. All rights reserved.

まず、Figure1からわかるように、エニー生がエニーに参加した理由のうち最も多いものは、優秀な学生とのコミュニティに属することであった（31%）。続いて、多様な意見が飛び交うディスカッションであり（27%）、これはおそらく学生のコミュニティに参加する中で行われるものであろう。

その次に、マンツーマン面談を通じて自分を考えることが続き（26%）、最後に社会人・企業との交流がある（16%）。いずれの理由の間も極めて大きな差があるわけではないが、社会人・企業との交流は他と比べて低い数値となっていることが見て取れるだろう。

Figure2

自由回答における頻出単語（198名の自由回答の3万9千字のテキストデータ）

次にFigure2を参照されたい。こちらは自由回答の中から頻出単語を抽出した者であり、図における各単語の面積が広がるほど出現頻度が高かったことが示されている。まず、当然ではあるが「自分」という単語が最もよく出現していた。これは、エニーに参加した理由が、何らかの形で自分に関連しており、他者への焦点や社会への焦点よりも、自分への焦点が多いことを示している。続いて、「社会」という単語も比較的多いことも特徴であり、「自分」と「社会」の双方が出現していることから、この間の関係性や双方への関心があると見て取れる。「将来」「キャリア」「人生」「価値」という単語からは、キャリアや人生における計画や進むべき方向を考えるという目的を読み取ることができるだろう。これは前述のマンツーマン面談と対応しており、メンターワークアウトの中で特に将来のキャリアや人生、自らの価値観について話すことを望んでいると見て取れる。最後に、「学生」「交流」という単語も見られることから、前述の定量データが指し示すように学生との交流が求められていることがわかる。なお、これらの事柄は、Figure3で示されているエニー受講生のファーストキャリアの希望別に分析しても、Figure4にあるようにいずれのグループにおいても見られる傾向である。

©2024 OVER20&Company.,Inc. All rights reserved.

株式会社ＯＶＥＲ２０＆Ｃｏｍｐａｎｙ．〒105-6027 東京都港区虎ノ門4丁目 3-1 城山トラストタワー 27 階
contact@over20-company.com http://www.over20-company.com

Figure3

ファーストキャリアの希望

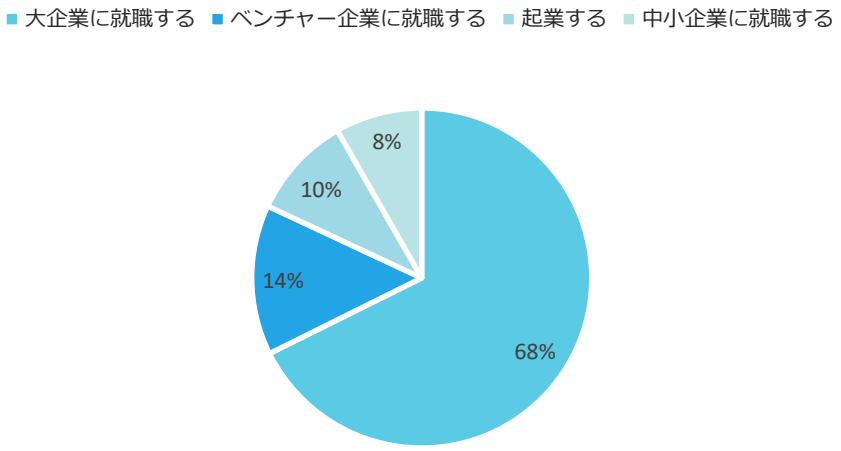
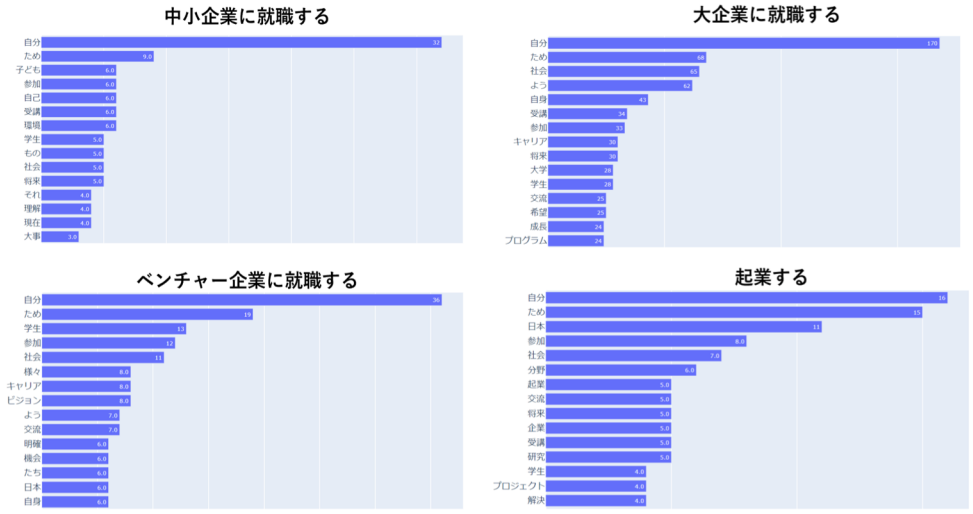


Figure4

キャリアの希望別の参加理由頻出単語



所属と独立のジレンマ ～エニー生は何を求めてここに来るのか～

©2024 OVER20&Company.,Inc. All rights reserved.

株 式 会 社 O V E R 2 0 & C o m p a n y . 〒105-6027 東京都港区虎ノ門4丁目 3-1 城山トラストタワー 27 階
contact@over20-company.com http://www.over20-company.com

考察

以上のデータからは、いくつかのことが類推できる。第一に、コミュニティへの参加の意欲が高いことであり、このことからエニーに参加する個人、あるいは日本における若者に、何らかの社会コミュニティに属することを希求する傾向があるかもしれない。現に、都市化や労働形態の変化、SNSの普及などを通じて個々人がますます孤独を感じるようになっている現代において、この傾向が存在することは不思議ではない。孤独を感じる傾向には、第二次世界大戦以降、日本人の心理・行動傾向が個人化していることも関係しているかもしれない。

第二に、何らかのコミュニティに属したいと同時に、自らのキャリアや価値観など、個人に独自の事柄も明らかにしたいと考えている点が挙げられる。現代では自由な選択が許され、また、価値観が多様化し、あまりの選択肢の多さに戸惑うことも少なくない。実際、多くの個人が自らのキャリアをどうしたいのか、どうすればいいのかが分からない「キャリア迷子」に陥っていることを示唆するレポートも存在する。

このような社会環境の中で、自らの進むべき道を模索していることが見て取れる結果である。

第三に、エニー生には就職活動にまさに従事する学生が多いが、意外なことに社会人・企業との交流を比較的求めてエニーに参加する個人が低いことが挙げられる。このデータの解釈には二つ考えられ、一つはそもそもキャリアについて考える、あるいは探索する必要のない、キャリアが決まっている人やキャリアにあまり価値を置いていない個人がエニーに参加しているという解釈である。しかしながら、メンターワークアウトで話したいこととしてキャリアや将来についてのテーマが多いことを踏まえればこの可能性は低い。したがって、二つ目の可能性である、キャリアについて考えながらも、その答えやヒントを社会人や企業との交流に求めていないことが挙げられる。

©2024 OVER20&Company.,Inc. All rights reserved.

株式会社ＯＶＥＲ２０＆Ｃｏｍｐａｎｙ．〒105-6027 東京都港区虎ノ門4丁目 3-1 城山トラストタワー 27 階
contact@over20-company.com http://www.over20-company.com

むすびに

本レポートは、所属と独立の間に存在するジレンマについての議論を行い、エニー生のデータを通じてそのような対立する欲求が存在することを検討している。これは、エニー生が、コミュニティへの所属、そして、自ら独自の価値観やキャリアの道を選び取るためにエニーに参加していることが分かる。

そして、興味深いことに、世代間の関係性のひずみを見て取ることもできた。企業への就職を考える学生は、企業や社会人とのつながりを欲する可能性が高いと考えられる。しかしながら、同年代の学生とのつながりを構築するためにエニーにくる個人のほうが多いという傾向が見られた。

私たちの社会が必要としているのは、同年代だけでなく上の世代とのコミュニティを欲し、上の世代から次世代へと知識や考えを継承しながらも、次世代が自らの独自性を欲することで継承した事柄を革新する循環メカニズムであるかもしれない。世代を超えたコミュニティや関係性が、上の世代から下の世代へと知識や考え方を受け渡すことにつながり、同時に次世代が独自性を求めて独自の考えを持つことでこの知識や考え方を新たなものにアップデートしていき、上の世代に対しても学べることを提供し、世代を超えた取り組みの継続と刷新を可能とするためである。例えば、持続可能性に関する取組であれば、世代を超えた取り組みが必要であり、またその時々の世の中の状況に合わせてこの取り組みを変化させていく必要がある。このような課題に対し、世代を超えたコミュニティと、次世代による独自性の追求は鍵となるかもしれない。

©2024 OVER20&Company.,Inc. All rights reserved.

株式会社ＯＶＥＲ２０＆Ｃｏｍｐａｎｙ．〒105-6027 東京都港区虎ノ門4丁目 3-1 城山トラストタワー 27 階
contact@over20-company.com http://www.over20-company.com

i. e.g. Brewer, M. B. (1991). The social self: On being the same and different at the same time. Personality and Social Psychology Bulletin, 17(5), 475–482.やLeonardelli, G. J., Pickett, C. L., & Brewer, M. B. (2010). Optimal distinctiveness theory: A framework for social identity, social cognition, and intergroup relations. In M. P. Zanna & J. M. Olson (Eds.), Advances in experimental social psychology (pp. 63–113). Elsevier Academic Press.を参照されたい。

ii. Ogihara, Y. (2017). Temporal changes in individualism and their ramification in Japan: Rising individualism and conflicts with persisting collectivism. Frontiers in Psychology, 8, 695.

iii. Hertz, H.（2021）.『THE LONELY CENTURY なぜ私たちは「孤独」なのか』ダイヤモンド社. やWaldinger, R. & Schulz, M.（2023）.「死亡率を26%も高めてしまう…ハーバードの研究でわかった『孤独が人間を死に至らしめる』本当の理由」『PRESIDENT Online』最終閲覧日2024年1月21日, https://president.jp/articles/-/70679を参照。

iv. 荻原祐二.（2015）.『日本社会・文化の個人主義化に伴う不適応問題の解明』[博士論文, 京都大学]. https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/199024/2/dkyok00166.pdfやMartin, A. K. T.（2022）.「Is Japan happy? Exploring the nation's evolving views of well-being」『thejapan times』最終閲覧日2024年1月21日, https://www.japantimes.co.jp/life/2022/05/30/lifestyle/japan-happiness-wellbeing/を参照。

v. 株式会社グロービス（2023）.「『キャリア迷子』の若手社会人が半数以上。キャリアプランを持っている人のほうが"将来への期待度"も高い傾向に」『HRPro』最終閲覧日2024年1月21日, https://www.hrpro.co.jp/trend_news.php?news_no=2077や大嶋寧子（2021）.「8割が『キャリアの迷子』日本人。しんどい時代の乗り越え方を2つの国から学ぶ」『LIFE INSIDER』最終閲覧日2024年1月21日, https://www.businessinsider.jp/post-234354を参照。

©2024 OVER20&Company.,Inc. All rights reserved.

株 式 会 社 ＯＶＥＲ２０＆Ｃｏｍｐａｎｙ．〒105-6027 東京都港区虎ノ門4丁目 3-1 城山トラストタワー 27 階
contact@over20-company.com http://www.over20-company.com